ドレミファ器楽

フル・スコア
SK-84

ポンキエルリ「ラ・ジョコンダ」より
時の踊り

小島里美　編曲

1834年生れのイタリアの作曲家ポンキエルリは、ミラノの音楽院に学んだ後、クレモナのサン・イラリオ聖堂のオルガニスト兼楽長として活躍し、1886年ミラノの地に没した。教会音楽が彼の作曲活動の主たるものであるが、1876年ミラノで上演されたオペラ「ジョコンダ」は、彼の名前を永久に音楽史上に留める傑作となった。この中の「時の踊り」は今日でも、よく単独で演奏される名曲である。

〔演奏上の注意〕
ここでは原曲より、主要なテーマを持つ3部分を、抜粋して編曲してある。それぞれ拍子もテンポも違うので、分けて練習し、それぞれの雰囲気をよくつかんで演奏して欲しい。

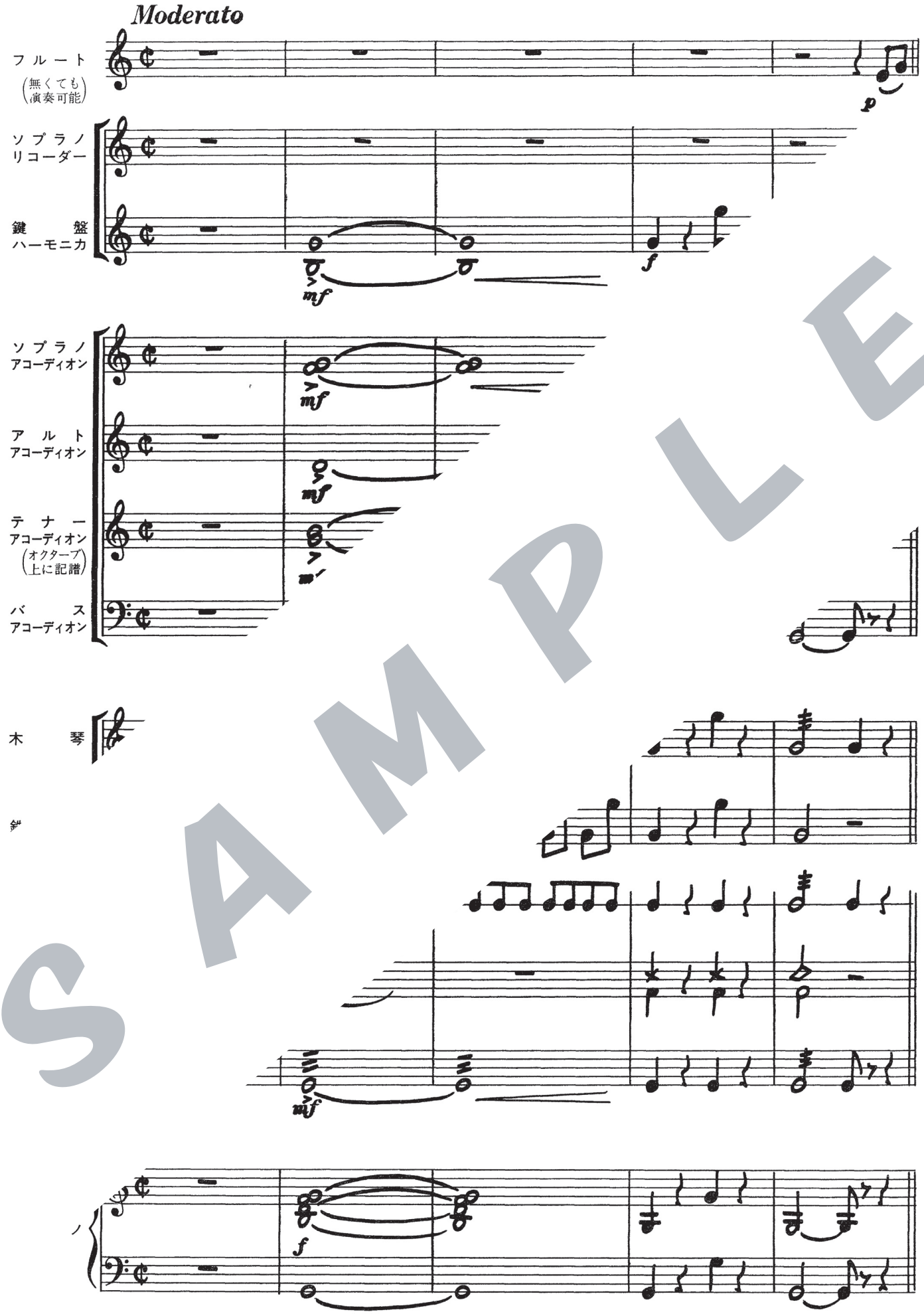
第一部は $\frac{2}{2}$ モデラート。Ⓐからおなじみのテーマになるが、ここはごく軽く可愛らしい感じに仕上げること。 ⎫2. から臨時記号方式なので、調号は変っていないが、実際はホ短調に転調している。ここから哀愁をおびた感じになる。メロディーは充分に歌いこんで、演奏に臨むこと。

第二部は $\frac{3}{4}$ アンダンテ。ゆったりと流れる、メロディーとメロディーの合間に、強烈なアクセントが入るのが大きな特徴。ハッキリとその差をつけるように。木琴は必ずソフトマレットを使用し、32分音符はトレモロの積りで奏すれば、それほど難しくはない。

第三部は $\frac{4}{4}$ アレグロヴィヴァーチェ。いわゆる「フレンチカンカン」の踊りによく使用されるリズムの有する部分。軽快なリズムにのって、そのまままの勢いで演奏してしまおう。最後の方にリコーダーの16分音符が出てくるが、Dの音を替え指にすると楽である(音程は多少狂うが、速い時はあまり気にならない）曲全体を通して言えることは、強弱や < > の差をハッキリつけることである。それによって曲は生き生きとしてくる。また頻繁に出てくるrit。とa.tempoを上手にこなすと、曲に趣きが出る。
尚ここでは、曲中シンバルのパートの人が、持ち替えでトライアングルを叩く箇所がある。又、小太鼓、サスピションシンバルは、スティックで奏する所とブラシを用いる所とがあるので、それぞれ必ず使い分けること。（ ）は、左手ブラシは鼓面をこすり、右手ブラシで3拍目を叩く、という奏法である。フルートとティンパニーは、なくてもさほど演奏に差し支えがない。

アコーディオン、鍵盤ハーモニカ、及び木琴、鉄琴に於て和音が書かれてある箇所は、和音弾きをせず、各々が一つずつ音を弾き、和音をつくって下さい。

ミュージックエイト

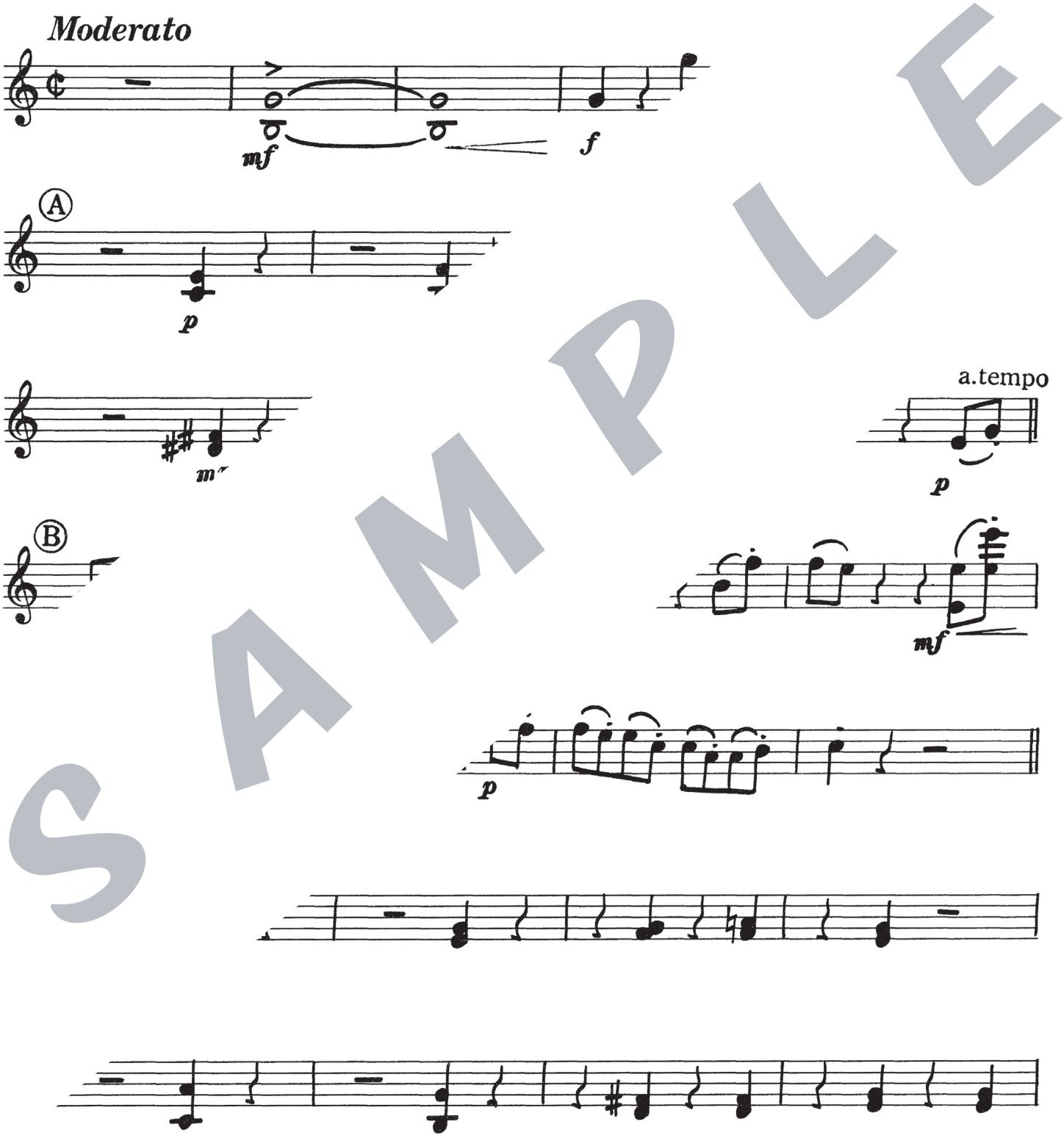

Moderato
フルート
(無くても演奏可能)
ソプラノリコーダー
鍵盤ハーモニカ
ソプラノアコーディオン
アルトアコーディオン
テナーアコーディオン
(オクターブ上に記譜)
バスアコーディオン
木琴
p
mf
f

SAMPLE

ポンキエルリ「ラ・ジョコンダ」より

時の踊り

鍵盤ハーモニカ　　小[illegible]



SAMPLE